

水稻の生育状況と今後の管理対策（臨時第3号）

早生品種は品質確保のため刈り遅れず収穫してください

令和3年8月31日
新潟県農林水産部

〔こしいぶきの収穫前品質調査の結果〕

- ◎ 作物研究センター（長岡市）におけるこしいぶきの収穫前品質調査（積算気温795℃）では、整粒歩合は前年並の値となっています。
- ◎ 一方、基部未熟粒の発生率は、約5%と高くなっており、登熟期の高温の影響も認められます。

〔管理対策のポイント〕

収 穫

- ◎ こしいぶきなどの早生品種では、出穂期後10日間の平均日最高気温が33℃に達しており、胴割粒が発生しやすい状態と推定されます。
また、作物研究センターによるこしいぶきの収穫前品質調査の結果から、刈り遅れによる基部未熟粒の増加が懸念されます。
- ◎ 高温気象年は収穫適期の幅も短いことから、早生品種ではほ場で籾の黄化状況（黄化籾割合90%がめやす）を必ず確認の上、地域の技術情報と最新の気象情報も参考に、適期を逃さず収穫してください。

乾燥・調製

- ◎ ほ場段階で胴割れが想定される場合は、毎時乾燥速度が0.5%以下になるよう乾燥機の送風温度を低く設定し、必ず手持ちの水分計で仕上げ水分を確認してください。
- ◎ ほ場段階で18%程度まで籾水分が低下している場合は、張り込み後に通風循環し、水分ムラを解消させてから加熱乾燥を行ってください。
- ◎ 調製時に未熟粒や被害粒が多い場合は、流量を絞ったり、うるち米では1.9mm以上の篩い目を用いたりして、屑米除去の精度を高めましょう。さらに、色彩選別機を活用して整粒歩合を高め、1等級の品位に仕上げましょう。

熱中症予防

- ◎ 厳しい暑さが続きます。農作業時には、水分補給や休憩時間を十分に確保するなど、熱中症予防と健康管理に最大限の注意をしましょう。